

25年12月分 製品市場の荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成25年 11月20日～ 12月10日

2. 調査実施方法

全国の製品市場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
12月分の回答企業数は6社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 荷動き動向 Weight. D. I.

品目		25/12月	26/1月	2月
入荷動向	国産材製材品	△ 75.0	△ 58.3	△ 41.7
	外材製材品	16.7	0.0	△ 8.3
	その他	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
販売動向	国産材製材品	66.7	33.3	33.3
	外材製材品	41.7	41.7	41.7
	その他	25.0	25.0	25.0
在庫動向	国産材製材品	△ 91.7	△ 91.7	△ 83.3
	外材製材品	△ 20.0	△ 20.0	△ 20.0
	その他	△ 100.0	△ 100.0	△ 100.0

国産材製材品及びその他の入荷は、減少基調で推移、外材製材品は12月はやや増加、1月は横ばい、2月にはやや減少に。
国産材製材品、外材製材品、その他の製材品共に販売動向は増加傾向で推移。
在庫はいずれの品目も減少傾向で推移。特に国産材及びその他は減少が著しい。

(2) 価格動向 Weight. D. I.

品目		25/12月	26/1月	2月
スギ	柱角 KD10.5×3	91.7	91.7	66.7
	柱角 KD12×3	91.7	91.7	66.7
	通し柱 12×6	70.0	70.0	50.0
	桁角	83.3	83.3	50.0
	母屋角	83.3	83.3	58.3
	タルキ	75.0	58.3	41.7
	間柱	83.3	66.7	41.7
	加工板	66.7	50.0	33.3
	ヌキ	50.0	41.7	16.7
	平割	58.3	50.0	33.3
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	100.0	83.3	66.7
	柱角 KD12×3	91.7	83.3	66.7
	土台角 10.5×4	100.0	83.3	75.0
	土台角 12×4	91.7	83.3	75.0
	通し柱 12×6	80.0	70.0	50.0
カラマツ土台角10.5×4	50.0	50.0	50.0	
米マツ平角	10.0	30.0	30.0	
米マツ割物	20.0	20.0	20.0	
北洋エゾマツタルキ	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7	
北洋アカマツタルキ	△ 10.0	10.0	10.0	

スギ製材品及びヒノキ製材品の価格動向は、総じて強含みないし強保合で推移。
カラマツ土台角は強含みないし強保合で推移。
米マツ製材品はやや強保合で推移。
エゾマツタルキはやや弱保合で推移、アカマツタルキは12月のやや弱保合が1,2月はやや強含み。

モニターからのコメント

(荷動き)

- ・国産材入荷は減少のまま変わらず、販売は構造材主体にプレカット、流通材主体に動きよし、在庫は予約分入荷次第配送・引取りにて更に在庫減。
- ・入荷は国産材の品不足は致命的で平年並みの入荷はあるが全く足りません、外材への移行が始まっており外材比率がアップしそうです。販売は国産材の引き合いは多いが入荷不足のため思うように売上増にならない。国産材の在庫はほぼゼロ。
- ・入荷はスギ、ヒノキ製品全て減少傾向、外材は供給量安定しており、増加。販売は国産材は役物・一般材含めて増加、外材も安定販売。在庫は販売好調で減少気味、外材は供給多いため増加傾向。
- ・スギ、ヒノキ原木不足に続き製品入荷少なくなる。WW及びアカマツは1,2月入荷減少と予想。単価上昇し始める。プレカット工場から動き出した。国産材は原木不足で入荷減少し在庫もやや減、WW、米ツガ、米マツ製材品の在庫は横ばい。
- ・国産材製品の入荷は壊滅的状态、樹種、規格とわず少ない。販売は製品があれば売れる状態、受注残ばかり増える一方。在庫はゼロオに等しい。

(製品価格)

- ・スギ単価若干UP、流通量少なし。ヒノキ柱角は11月、12月引き続き品薄新規受注は年内納入範囲、ヒノキ土台角10.5cm角はグリーン、KDとも単価上昇、物もない、12.0cm角も品薄・単価UP、新規受注は年内納入無理。
- ・スギ柱角は物不足で毎月値上げしている、特に10.5cm角は足りない。スギ通し柱は全く足りない、元々専門業者しか製材してないため供給不足。スギ桁価格は比較的安定していたが150-210巾の値上げ幅が大きく品物も不足。母屋は値上げ幅が最も大きく商品の入手も困難な状況。間柱はこのままだとWWに代わる物件が出そうです。ヒノキの柱、土台は全て不足、原木も高止まりして高値安定です。1月待っても入荷しない。
- ・スギ柱角、乾燥材は品薄で上昇(急騰)、スギ桁角、母屋角はKD・GRN共に品薄、上昇。タルキ、間柱も原木不足の理由で製品入荷減少し価格も上昇。スギヌキ、平割りも同様に小幅上昇。ヒノキKD柱角は上昇、土台角は入荷少なく急騰、落ち着くまで時間かかりそう。米マツ平角(KD, GRN)保合で推移。割物は需給バランス取れている。北洋アカマツは相変わらず入荷多で供給多く弱含み。
- ・スギ柱角KDは、今回仕上げは2,000円/m³アップ、来年1月仕上げは3,000円/m³、2月からは更に1割アップとの話がある、桁、母屋、タルキ、間柱、ヌキ、加工板及び平割りもスギ原木少なく上昇、商品も減少。ヒノキ柱角KDはプレカット工場からの引き合い多くなった、今の入荷状況は来年1月末の予定、土台角は住宅エコポイント用で単価高騰。米マツ平角は単価変わらず、北洋アカマツタルキは円安の影響で上昇。
- ・スギKD柱、間柱、GRN角、全て価格は上昇、数ヶ月は続くと思われる。スギも非常にタイトだが、ヒノキの方が更に価格は強気で入荷は悪い。米マツは国産材の代替としてシフトしていたり、為替の関連でも値上がりする見込み。